

第 1 2 回新城市若者議会

令和 7 年 3 月 2 4 日（月）午後 7 時から午後 8 時 1 6 分
新城市議会 議場

開 会 午後7時

1. 若者議会議長あいさつ

○梅田禪之助議長 若者議会議長の梅田です。若者議会条例第6条第1項に基づき、本日の進行を務めさせていただきます。ただいまから新城市若者議会市長報告を行います。

5月の第1回若者議会から私たちは、若者が活躍できるまちを実現するべく、何度も議論を重ね、8月の第5回の若者議会では、政策の中間報告を行いました。その後、担当課との意見交換なども通して、令和7年度若者議会予算事業計画を策定し、11月に市長へ答申しました。

本日は、11月に行った市長答申以降、3つの事業と若者総合政策の更新についての進捗状況を報告させていただきたいと思います。また、報告後に時間をいただき、委員から今期1年間の活動を振り返らせていただきたいと思います。

それでは、事業ごとの報告に移ります。

2. 事業報告

○梅田禪之助議長 初めに、未来の育み手委員会による「TSUNAGO～未来共創プロジェクト～」です。お願いします。

発表者は、加藤廉（かとう れん）委員、菅沼堅太（すがぬま けんた）委員、杉浦拓明（すぎうら たくと）委員です。よろしくお願いします。

○加藤廉委員 「未来の育み手委員会」の発表を始めます。

私たちは、「若者と子どもの交流機会」を増やしたいという想いのもと、政策を考えてきました。現代社会では、一人っ子や核家族世帯の増加に伴い、若者が子どもたちと接する機会が減少し続けているため、私たち若者は子育てへのイメージが付きにくい環境にあります。そこで、「若者と子ども」、「若者と地域」のつながりを増加させることで、

新城で暮らしたい、新城で子育てしたいと思える若者の増加を目指しました。

以上を踏まえ、事業名も「TSUNAGO～未来共創プロジェクト～」と設定し、新城に関わる全ての人が一丸となって未来を共に創っていこうという想いを込めています。それでは具体的な政策の紹介及び未来の育み手委員会の活動報告を行います。

1つ目はボランティア人材バンクです。コロナ禍を境に、ボランティアを主催する方、参加する方の高齢化が進み、地域活動などの担い手が減っている現状があります。その結果、活気がなく、静かなまちになってしまいます。一方で、盆踊りに中高生を呼び、若者が参加したことで高齢の方々が例年以上に楽しむことができたということを社会福祉協議会の方に聞きました。

現在、千郷中学校では、「ちさボラ」というボランティアを募集する仕組みがあり、また新城有教館高校ではボランティア部があります。この2校以外の中学生や高校生も学内にとどまらない活動を求めていると考えました。

この事業は「ボランティアが必要な団体」と「ボランティアをしたい若者」が繋がることのできる機会を提供し、持続的に地域活性化ができるまちを目指します。

政策案について説明します。ターゲットは地域活動団体と中学生以上の若者です。ボランティアを必要とする団体は市に、ボランティアに関する情報を提出します。ボランティアをしたい若者は事前に市に登録しておくことで団体が市に提出した情報をメールで手に入れることができ、その団体にボランティアの参加を申し込みます。

この仕組みの周知方法はチラシの配布、市のSNSなどを活用する予定です。

○菅沼堅太委員 2つ目は、若者と子どもの交流イベントです。

この政策は、主に16歳から29歳の若

者と3歳から5歳の幼児が交流することにより、若者は子どもたちへの共感力や思いやりを身につけながら、子育てや将来について考えるきっかけをつくり、子どもたちは中高生や大学生・専門学生のお兄さん、お姉さんとのコミュニケーションの中で社会性や創造性を養うことを目的としています。次にイベント名、開催日、開催場所についてご説明します。イベント名は「JUMPUPミライフス」です。開催日は12月頃、開催場所は市民センターほうらいを予定しています。今後はこのイベントを実施できるように実行委員会を設立し、募集フォーム等で実行委員と一緒にやってくれる若者や当日のボランティアスタッフの募集を行っていききたいと思います。

1月19日に開催された「新城消防祭」において、小さなお子様を持つ親御さんを対象に、「子どもが好きな遊び」と「普段遊ぶ場所」に関するアンケートを実施しました。調査の結果、子どもの好きな遊びとして最も多く挙げられたのは「お絵かき・シール貼り」であり、次いで「電子機器を使った遊び」、「段ボール遊び」という順になりました。

また、普段遊ぶ場所については、「新城市内の屋外」が最も多く17人、「市外の屋内」が16人、「市外の屋外」が14人と続き、「市内の屋内」で遊ぶと回答した親御さんは10人以下にとどまりました。この結果から、市内の屋内で遊ぶ機会が限られていることが示され、本イベントの開催意義を改めて確認することができました。

さらに、アンケート結果を踏まえ、子どもに人気の高かった「お絵かき・シール貼り」を今後のイベント内容に取り入れることを提案いたします。

○杉浦拓明委員 図書館での読み聞かせについてお話しします。初めは読み聞かせをきっかけに学生と子どもたちが気軽に交流できる場を、と考え考案しましたが、今回は読み聞か

せは見送るという結論にまとまりました。続いて理由についてご説明します。私たちは西栗倉村の「よむよむエプロン」を参考に実際に若者がエプロンを身に着けて幼児に読み聞かせを行う実証実験を行いました。また読み聞かせを行ったあとにアンケートにも協力していただき、保護者からは「高校生に読んでもらえて子どもたちもとても楽しそうでした」など、好意的な意見を沢山いただきました。さらに、よむよむエプロンを継続してほしいとの声もあり、保護者からの需要があることが分かりました。しかし肝心の読み聞かせを行う若者が少ないことも同時に判明しました。以上のことから、よむよむエプロンは保護者からの需要はありますが、読み聞かせを実施するうえで、必要な若者が集まらないこと、また、必ずしも毎回若者が参加しているとは限らない仕組みのため、保護者も利用しにくいと考えられることなどの要因が重なり、継続して実施していくのが難しいと判断しました。

私たち自身もこれらの活動を通して、子どもたちや地域と触れ合うことができ、子育てや新城市のまちづくりについての解像度が大きく向上しました。実際に体を動かしながら子どもたちと触れ合ったり、地域の方々とお話をしたりする経験は、将来のためにも非常に意義のあることだと改めて感じています。このような経験を私たちだけではなく、新城市に関わる全ての若者にも届けていき、高齢化している市内の活動やイベントに中高生をはじめとした若者がボランティアという形で参加し、地域との関わりを持てるようにしていきたいです。そして新城市が持続的に発展できるように、これからも積極的に活動を続けていきたいと思っています。

以上で「未来の育み手委員会」の発表を終わります。

○梅田禅之助議長 ありがとうございます。

自席にお戻りください。

次に、まちづくり委員会による「新城魅力探しの旅事業」です。お願いします。

発表者は、柏木清吾（かしわぎ せいご）委員、今泉明花（いまいずみ あすか）委員、城所英汰（きどころ えいた）委員、小林倫（こばやし りん）市外委員です。よろしくお願いします。

○柏木清吾委員 まちづくり委員会の事業「新城魅力探しの旅」の発表を始めます。

新城市の若者は、自分のまちに何もないと言います。新城市には豊かな自然、農産物、景色など新城市でしか見ることができないものや感じるができない雰囲気などがあります。

例えば、私で言いますと、地域のお祭りがとても好きだったりします。地域のお祭りは、子どもから大人まで祭りに対して全力で楽しむ、そのような雰囲気が好きです。

一方、私達はこの地域が好きでまちづくりに関わりたいという思いを持ち、若者議会に参加しています。新城市の若者には、それほど新城市に愛着を持っていない人が多く、市外の人に魅力を聞かれても答えることができないほか、人や自然などの地域資源の魅力に気づけていない人の多さに危機感を持ちました。新城市の魅力を知らないことが若者の流出につながっている側面があるのではないかと考えました。

○小林倫市外委員 そんな現状を改善するために、まちづくり委員会では「誇れるものがあるまち」、そしてその「誇れるもの」を共有するための交流の機会を提供することを目標としています。多種多様な誇りが地元にあるのだと交流を通じて共通認識をつくることで、新城市を好きと思う気持ちを広め、いずれは新城市内外問わず、自分のいる場所で地元の魅力を誰しもがながしにせず、誇りを持って話せるようになることを目指してい

ます。

また、新城市のことを今よりもっと多くの人が好きになることで、地域のイベントや市政により積極的に参加したいと思えるようになり、市が活気づくとも考えました。

私たちまちづくり委員会は2つの政策を提案していきます。

1つ目は、「新城を駆け巡れ シンコウリュウ」です。現在、新城市は電車やバスの本数が少なく、車を自由に使えない人にとっては、移動できる手段が不便という現状があります。駅やバス停がない場所に行くためには、時間だけでなく労力もかかり、また、電車やバスで移動した先の交通手段である二次交通も整備されていません。これらの課題を解決することと、新城市が「じてんしゃのまち 新城」を掲げていることから、電動アシスト付き自転車のレンタサイクルの推進を目指しました。

○今泉明花委員 市内の高校である有教館と黄柳野高校と、市内イベントの消防祭でアンケートを実施しました。回答総数は379件でした。また、新城まちなみ情報センターで実際に電動アシスト付き自転車を体験してもらうために、レンタサイクルの実証実験を実施しました。

アンケートでは、新城市で交通手段に困った状況について聞いたところ、電車やバスの本数が少ないこと、駅から目的地までが不便であるなどの回答があり、ある程度の需要があると見込めると考えました。また、新城市に電動アシスト付きレンタサイクルを設置する場合、どこにあると利用したいか聞いたところ、公共施設、駅・駅前、スーパーなどの回答がありました。特に駅・駅前にほしいという意見が非常に多くありました。今後市がレンタサイクルの設置などを行うことがあれば、需要が高い駅・駅前に設置をしていただきたいです。

電動アシスト付きレンタサイクルの推進を

行うことで、車を持っていない世代や人の足としてレンタサイクルを活用できたり、二次交通としても活用できたりして、新城市全体の活性化を図ることができます。レンタサイクルを通じて新城に住む若者が自分の足で新城市の魅力を体感し、地元の魅力を感じてもらうことができればよいと考えました。

○城所英汰委員 2つ目の政策は、「さあ開こう 新城ワールド」です。

「さあ開こう 新城ワールド」では、つながる地域と若者の輪のアップグレードを行います。

私たちは目的である「誇れるものを共有するための交流の機会を提供すること」について考え、つながる地域と若者の輪事業に着目しました。第9期若者議会にてアップグレードを行ったときに新しくフィールドワークが追加されました。フィールドワークが誇れるものを見つけ、その後の話し合いが「誇れるものを共有するための交流の機会」になると考えたためです。また、アンケートの結果などが非常に好評でしたので、これらの理由から、つながる地域と若者の輪事業の事業規模を拡大して実施します。

まず、開催地域を1か所から各地域自治区に広げます。鳳来は子どもの数が少ないため、鳳来全体で実施します。そして、参加した市内の中学生が自分の住んでいる地域のことだけでなく、他の地域のことについても知ることができるように、発表を新城文化会館にて全地区合同で行います。

自分たちの住んでいる地域について学び、それを発表する機会を提供するとともに、市内のほかの地域についての発表を見ることで、地元、新城市に誇りを持つことができます。

その後、中学生の意見や感想を活かせるよう、地域協議会だけでなく若者議会にも共有します。運営は各地域自治区職員と若者議会のメンバーの協力のもとで行います。

想定される費用は、印刷製本費35千円、

消耗品17千円、施設などの使用料45千円の合計97千円です。

以上でまちづくり委員会「新城魅力探しの旅」の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○梅田禅之助議長 ありがとうございました。自席にお戻りください。

次に、若者政策委員会による「若者政策10周年記念事業」と「若者総合政策の更新について」です。お願いします。

発表者は、熊谷空（くまがい そら）委員、青木ことみ（あおき ことみ）委員、川合美緒（かわい みお）です。よろしくお願いします。

○川合美緒委員 若者政策委員会の発表を始めます。よろしくお願いします。

まず、若者総合政策について報告します。私たちは答申後、過去の若者議会の事業、市が実施した若者へのアンケート調査、そして私たち自身の願いや思いをもとに、第2次若者総合政策を作成しました。その内容をいまから発表します。お時間の都合上、一部省略させていただきます。詳細はお手元の資料をご確認ください。

趣旨

平成27年4月に新城市若者総合政策が策定され、その指針をもとに若者が活躍するまちの形成に向けて今日まで歩み続けてきました。策定から10年の時を経て、若者を取り巻く環境が変化する中、若者総合政策もいまの時代、そしてこれからの時代を生きる若者たちの思いに合わせたものへと刷新する必要があります。

次の10年に向けて、新城市の若者が社会を形成する主体としてさらなる活躍が果たせるよう、若者、市民、事業者及び市が協働しながら取り組んでいくための「第2次新城市若者総合政策」を策定しました。

前文

若者総合政策は「若者が活躍するまち」の形成推進を目的としています。ここでいう「若者が活躍するまち」とは、新城市自治基本条例の「市民が主役のまちづくり」に則って若者が自らの手でより良いまちを作り上げるための環境を整えるということです。

本政策の指針はあくまで若者のためのものですが、その実現にあたっては市民、議会及び行政の協働も欠かすことができません。多様な人たちとの協働によって、「若者が活躍できるまち」を目指します。

○青木ことみ委員 指針１．若者が自分らしくいられるまち

若者が自分らしくいられるまちは、若者自身のwell-beingの向上に寄与し、活力ある地域社会の実現につながります。そのためには、多様な価値観や個性が尊重され、それぞれの夢や目標に向かって挑戦できる環境が整っていることが重要です。また、仕事や学びだけでなく、趣味や余暇を楽しみ、仲間とつながれる居場所があることも、若者にとって大切な要素です。本政策では若者がありのままに今を生き、安心して未来を描けるまちを目指します。

具体的な方針は、夢を持てる／夢を実現できる、余暇や休日を楽しめる、自分を表現できる、居場所がある、の４つです。

指針２．若者にとって誇れるまち

「若者が活躍するまち」には若者が自らの環境について知ることが重要です。若者自身が地域の魅力を知り、価値を実感することで新城市に対する誇りと愛着が生まれます。その魅力を市内・市外の方に発信し、多くの方に新城市について関心を高めてもらうことを目指します。

具体的な方針は、新城市を知ってもらう、訪れてもらう、好きになってもらう、住んでもらう、の３つです。

指針３．若者が暮らしやすいまち

「若者が活躍するまち」には若者が快適に過ごし、のびのびと生活できる基本的な環境が重要です。若者が安心して暮らし、将来の道を自由に描き、次の世代へと繋ぎやすくなるよう、本政策ではまちの様々な環境に目を向け、暮らしやすいまちを目指します。

具体的な方針は、安心安全に暮らせる、移動しやすい、子育てしやすい、必要な情報にアクセスしやすい、の４つです。

指針４．若者がともにつくるまち

まちづくりは、一部の人々や世代が行うものではありません。多世代が様々な意見や思いを出し合いながら作り上げていくものです。若者の思いがまちにあふれ、その思いをもとに若者が常にまちの様々な立場の人々と協力している環境づくりが必要です。本政策は新城市に「若者×〇〇」の輪を広げていくことを目指します。

具体的な方針は、「じぶんごと」がまちづくりに繋がっていると思える、若者の声があふれている、若者が多様な人と協働し、声を形にできている、の３つです。

第２次若者総合政策はパンフレットでの公表、および１０周年記念事業での発表を行い、来年度以降から若者議会における事業検討にも反映していければと思います。

○熊谷空委員 続いて、若者政策１０周年記念事業について報告します。

若者政策委員会では、１０周年を迎える若者議会の実績を振り返り、市内の若者や新城市若者議会が市民や全国の若者などを巻き込みながら、新たなスタートを切ることを目指して「若者政策１０周年記念事業」を答申しました。

ターゲットを市民、そして市内、市外を含めた全国の若者及び若者団体とし、１０周年イベント、記念グッズの制作、ＰＲ活動を提案しました。

答申後は、イベントの詳細について検討してきました。イベント名は、若者政策１０

周年記念「わきゃっぴ祭」で、キャッチフレーズは「若者政策とか興味ないけど、10年に1度だし今日ぐらい行ってみるかあ」です。

具体的にイベントのスケジュールも検討しました。スケジュールはスライドのとおりです。13時から講演会を予定しています。具体的な内容としては、参加する若者が「自分たちも頑張りたい」と熱意を持てる講演や、市外の若者団体の事例発表、若者議会10年の成果報告、第2次若者総合政策の発表などです。また事例発表の1つとして、ニューキャッスル・アライアンスに加盟している都市の若者議会などの事例を報告してもらう機会も作りたいと考えています。講演会のあとは、14時15分からワークショップを予定しています。夜は、18時からキャンプファイヤーを行い、若者政策に興味がない若者も気軽に来てもらえる機会にしたいと思っています。火を囲みながら、若者が本音をぶつけ合えるような場を設けようと考えています。また、昼食と夕食の時間に合わせてキッチンカーも呼びたいと考えています。

以上で若者政策委員会からの報告をおわります。ありがとうございました。

○梅田禅之助議長 ありがとうございました。自席にお戻りください。

3. 1年を振り返って

○梅田禅之助議長 続いて1年の振り返りを行います。各委員順番にお願いします。

初めに、加藤廉（かとう れん）委員お願いします。

○加藤廉委員 未来の育み手委員会の加藤廉です。

私はこの1年を通して、協力を学べた1年となりました。私が主にコミュニケーションをとるのは、同年代か1つ下、もしくは1つ上の主に学校内でのコミュニケーションでした。しかし、この若者議会に入ってから、

様々な年代の方とコミュニケーションをとり、政策についての話し合いをし、たくさん協力をすることができました。私は、この1年を通して、協力以外にも助け合いということも学びました。様々なことにつまずいても、みんなで協力し合い、助け合うことで、その壁を乗り越えることができました。この1年はとても成長でき、ためになる1年だったと思います。

1年間ありがとうございました。

○梅田禅之助議長 ありがとうございました。次に、菅沼堅太（すがぬま けんた）委員お願いします。

○菅沼堅太委員 この1年間で、若者議会を通して、私は成長することができました。そのうちの1つとして、誰とでもコミュニケーションをとれるようになったことです。若者議会に入る前は、人前に出て何かを発表する、知らない誰かとコミュニケーションをとることはかなり抵抗があり、めったにすることがありませんでした。ですが、若者議会に入り、自分とは違う年代の方と話すことや、人前に出て話す機会が増えたことにより、抵抗が減りました。その結果、学校で初めて話す方ともためらわず話せるようになりました。また、ボランティア人材バンクを考えてきて、今まではボランティアに興味がなく、市内にボランティアを求めているところがあるということすら知りませんでした。ですが、これからは地域活動やボランティアに積極的に参加していこうと考えています。

最後に第9期、第10期の経験を生かして、今後も新城市のために活動していこうと考えています。

1年間ありがとうございました。

○梅田禅之助議長 ありがとうございました。次に、城所英汰（きどころ えいた）委員お願いします。

○城所英汰委員 自分は今年初めての若者議会に参加させてもらい、多くのことを学ぶことができました。初めて入り、まずは何をし

たらいいかわからなく、戸惑うことがありましたが、多くのイベントに参加させてもらい、その中でコミュニケーションをとったりすることができ、とても楽しいことや、知らない方と話したりして、コミュニケーションをとったりすることができて楽しくなったり、今まで知らなかった新城市の歴史について知ることができました。この度若者議会で学んだ知識やコミュニケーションなどは、これから社会に出たときに、役に立つことは必ずあるので、その1つ1つを大切に覚えて活かしていきたいと思いました。

1年間ありがとうございました。

○梅田禅之助議長 ありがとうございました。次に、柏木清吾（かしわぎ せいご）委員お願いします。

○柏木清吾委員 私は、今年度3年間の若者議会の委員として活動してきた中で一番成長したのではないかと感じています。例えば、今までは新城市の悪いところから問題を発見していましたが、現在、今は良いところをさらに、どのように伸ばしたらよいのか、どうすればできるのかという視点で問題を発見するようになりました。

他にも会議での立ち振る舞い方も、昨年に比べて、飛躍的に向上したと感じており、発言のしやすいような雰囲気づくりを努力しました。3年間行ってきたからこそ学べるが多かった1年だと感じています。また、若者議会を通して、新しく繋がりができ、イベントを企画から始め、成功まで体験することができました。若者議会は、私にとって充実した生活の一部であり、第3の居場所となっています。

来年度以降は、若者議会のサポートを行いつつ、新城市を盛り上げるため、自分の活動を幅広くしていきたいと考えています。

1年間ありがとうございました。

○梅田禅之助議長 ありがとうございました。次に、峯田恵太（みねだ けいた）委員お願いします。

○峯田恵太委員 若者政策委員会、作手地区出身の峯田恵太です。

若者議会10周年の節目を迎えるこの1年、これまでの歩みを振り返り、そして、次の10年に向けた新たな1歩を踏み出せるよう、委員として、若者総合政策の見直しと10周年記念事業の準備を進めてきました。総合政策の見直しにあたって、過去の施策の振り返りや、若者議会を作り上げてきた方々の思いに触れる中で、10年間、若者議会が積み重ねてきたものが、活動に携わってきたメンバーをはじめ、新城の若者に大きな影響を残していることを改めて認識いたしました。そして、新しい若者総合政策には、今の新城の若者がこれから生きていくにあたって、大事な要素を詰め込むことができたと思っております。この総合政策をもとに、若者の声がまちに届き、さらに若者が活躍できるまちとして新城市が発展を遂げられることを願います。

私はこの4月から新城市を離れ、東京の会社に勤めます。叶うことなら、ずっとここにとどまり、若者議会や地域の活動に関わり続けたいという気持ちも強くありました。それでも、ここから離れるという選択をしたのは、新城市にいただけでは見られないこと、得られない経験を通して、過疎化が進んでいく日本の地域を何とかする手段を見出したいと思ったからです。いつか、大きなお土産を持って、ただいまと言えるように、新しいフィールドでも若者議会で得た経験を思う存分に発揮して、全力で励んで参ります。

最後にサポートしてくださった事務局、メンターの皆さん、そして、ともに活動してきた委員の皆さんにお礼を申し上げます。1年間本当にありがとうございました。

○梅田禅之助議長 ありがとうございました。次に、熊谷空（くまがい そら）委員お願いします。

○熊谷空委員 僕は最初、若者議会に新城市をPRするために入りました。そして、若者政策委員会に入り、10周年記念イベントという企画でPRに携わることになりました。若者議会に入り、新城市の魅力をさらに知る

ことができ、今年には秋頃に10周年記念のイベントがあり、そこで新城市内の若者や市外の若者に新城市をPRする機会が待っています。そこで、新城市の魅力をたくさんの人に知ってもらい、新城市の魅力に気づいてもらうよう頑張りたいと考えております。

また、この若者議会を通して、メンバーとの討論や企画をどのように練り上げていくかを1つ1つ丁寧にみんなで議論をすることができました。この経験は、これからの人生において、有意義なものになると思っています。

1年間ありがとうございました。

○梅田禅之助議長 ありがとうございました。次に、杉浦拓明（すぎうら たくと）委員をお願いします。

○杉浦拓明委員 未来の育み手委員会の杉浦拓明です。

私は今期で2年目になりますが、今年度は前期に比べて、自分なりに成長できた1年だったと感じています。前期の私は話についていけず、悔しい思いをすることが多々ありました。しかし、今期は、みずから発言や提案をする機会が増え、少しずつではありますが、自分の成長を実感できる1年間となりました。

また、委員会では議論を進める中で、政策が白紙に戻るというトラブルもありましたが、委員会のみんなと粘り強く話し合いを続け、事務局やメンターの方々の的確な支援もあり、最終的にはとても魅力的な政策を提案することができました。

最後になりますが、所信表明から市長報告まで、委員を支えてくださった事務局やメンターの方々に心から感謝申し上げます。この1年間本当にありがとうございました。

○梅田禅之助議長 ありがとうございました。次に、川合美緒（かわい みお）委員をお願いします。

○川合美緒委員 若者政策委員会の川合美緒です。

私は今回初めて、若者議会に参加しました。わからないことだらけでしたが、事務局の方や他の委員会の方のサポートのおかげで1年間活動することができました。会議で新城について話し合ってみて、16年間住んでいたけれど、知らなかったことがたくさんありました。新城市には魅力がたくさんあります。この魅力をたくさんの方々に知ってもらいたいです。私は人前で自分の意見を言うことが苦手でした。若者議会は、たくさんの方の前で自分の意見を話す機会があります。所信表明のときは、ものすごく緊張しました。声が震え、冷や汗が止まりませんでした。けれど、機会を重ねていくうちに慣れ、今は大勢の方の前でも自分の意見を言えるようになりました。若者議会に参加して、たくさん成長することができ、新城について知ることができ、もっと新城のことを好きになりました。1年間ありがとうございました。

○梅田禅之助議長 ありがとうございました。青木ことみ（あおき ことみ）委員をお願いします。

○青木ことみ委員 若者政策委員会の青木ことみです。

私は人前で話すことが苦手で、そんな自分を変えるために、今回、若者議会に参加しました。最初のころは緊張のあまり、なかなか自分の思っていることを発言できず、困ることが多かったのですが、他の委員の皆さんが話題を振ってくれたり、発言しやすい雰囲気にしてくれたりと、手助けしてくれたおかげで、自分の意見を言えるようになりました。

若者総合政策を新しく作り変えるために、市民のアンケート結果から、何を求めているのかを考え、作りました。みんなに伝わるように、言葉のニュアンスを変えました。その結果、誰が読んでもわかりやすい若者総合政策になったと思います。

私は、新城市の良さを知り、若者議会の活動を同世代に知ってもらうことを目標にしてきました。何人かの友達が、若者議会にとっても興味を持ってくれるようになりました。委員としての活動が終わっても、若者が新城を盛り上げていくような行事に積極的に参加

していきたいと思います。

1年間ありがとうございました。

○梅田禅之助議長 ありがとうございました。
次に、古瀬有菜（ふるせ ゆうな）委員お願いします。

○古瀬有菜委員 若者政策委員会の古瀬有菜です。

私は自分の意見を伝えることが得意でなく、私にとって若者議会での活動は大変だと感じる事が多くありました。3年目となり、今期は前期と比べ、自分の考えをしっかりと伝えることができ、成長を感じることができました。また、新城市内だけでなく、他の地域で活動している方々と関わることができた1年間でした。様々な方と関わることができ、自分自身の考え方や思いつかないことについて知ることができました。

委員会では、若者政策委員会の委員の一員として、これまでの10年間の若者議会を振り返り、次の10年に向けての若者議会について考えることができました。活用しやすく、わかりやすい若者総合政策となるよう、言葉遣いや表現方法についても考えてきました。この若者総合政策が多くの人の目にとまり、活用していったほしいと思っています。10周年記念事業では、多くの人に若者議会10周年を知ってもらえるような機会になってほしいと思っています。

この1年を通して、私は自分の意見を持ち、より成長することができました。また、様々な関わることができた1年となりました。

○梅田禅之助議長 ありがとうございました。
次に、今泉明花（いまいずみ あすか）委員お願いします。

○今泉明花委員 私は、若者議会の活動を新城を変えたいという思いや、こういう政策を試みたいという具体的な理由をもって参加したわけではありませんでした。しかし、市の魅力を知り、課題と向き合うことで、新城市について深く理解することができました。初めてのことばかりで、委員会で話し合う場

面では、フラットな状態から、自分の意見を考えることの難しさを感じ、メンターさんや職員さんなど、他の方に助けていただくことが多くありました。政策が進んでいく中で、だんだんと考えを持てるようになり、自分自身の成長を感じることでできた1年でした。

最後に、このような機会を設けていただいたことに感謝をし、これからの人生に生かしていきます。

1年間ありがとうございました。

○梅田禅之助議長 ありがとうございました。
次に、小林 倫（こばやし りん）市外委員お願いします。

○小林倫市外委員 小林倫です。

私は、まちづくり委員会として、1年間活動してきました。まちづくり委員会だけではなく、若者議会全体として、同じ新城市が好きという共通点を持った仲間たちが、若者の視点で、新城市をより過ごしやすいものにしたいと思い、活動して参りました。私は、大学4年生であり、若者議会の参加は、前年度に続いて2回目となります。そのため、どのような流れで委員会が進行していくかなど、なんとなくわかっていました。

しかし、まちづくり委員会では、話し合いをすると、今の私では考えつかないような意見や提案を聞くことができました。2回目で、進行の仕方を知っている分、意見や視点が凝り固まっていたところがあったということを実感しました。若者議会を通じて、様々な人と話し合いをする力を身につけました。このような機会があったときに、これからは、自分自身や相手の立場に臆することなく、一意見として、話し合いをよりよいものにするために、積極的に意見を出していきたいと思っています。

4月からは社会人となりますが、若者議会での経験を生かしていきたいと考えています。

○梅田禅之助議長 ありがとうございました。
次に、府内宏樹（ふない ひろき）市外委員お願いします。

○府内宏樹市外委員 若者政策委員会の府内と申します。

私は今期２期目として参加させていただきました。この１年間で、若者議会の１０周年という節目に向けて、若者総合政策の見直しや、記念イベントの企画に携わらせていただきました。特に、記念イベントでは、政治やまちづくりに関心がない若者にも楽しんでもらえるよう工夫し、多くの方に若者議会の存在を知ってもらう機会になるであろうと感じています。

また、今年度は初めて新城のイベントに参加し、この他にも、焼津市の公民館の視察にも行かせていただきました。普段の委員会では、オンラインでの参加が中心でしたが、現地で直接、委員の皆さんと顔を合わせ、一緒に活動することで、刺激を得ることができました。特に若者がまちづくりに積極的に関わる姿や、先進的な若者参画の取り組みを実際に見ることで、改めて若者が地域を動かすということを実感しました。この経験を通じて、若者が地域と繋がることの大切さを強く感じるとともに、私自身の今後の学びや活動の方向性について考える機会にもなりました。

来年度からは、大学で社会科教育ゼミに所属し、主権者教育を研究する予定です。これからは若者が地域に関心を持ち、よりよい社会をつくる主体として行動できるような教育のあり方を模索し、実践していきたいと考えています。

若者議会で得た学びを今後の研究や活動に生かしながら、引き続き地域と若者をつなぐ取り組みに関わっていきたいと考えています。

１年間ありがとうございました。

○梅田禪之助議長 ありがとうございました。次に、片桐 萌絵（かたぎり もえ）市外委員をお願いします。

○片桐萌絵市外委員 オンラインから失礼します。未来の育み手委員会、市外委員の片桐萌絵です。

この１年間で、市外委員として広島にいらながらも新城市に関わることができたことを非

常にうれしく思っております。高校生のフレッシュな意見や視点に刺激を受けたり、様々な方にいただいた貴重なご意見に考えさせられたりしていく中で、自分自身の視野を広げることができました。

私は今年成人式を迎えました。その中で久しぶりに再会した同級生はみんな新城が大好きで、新城に残りたいと口をそろえて言っていました。みんな新城の魅力を理解し、働く場所だったたくさんある。みんな新城に残りたいと思っているのに、なぜか残らない。その現実を真摯に受けとめ、私自身が今後もしっかりと頭と手と足を動かして、新城を起点に活躍する若者を増やしていきたいと思っています。新城市を離れた私だからこそ、感じられる新城市の魅力や強みをこれからも考え続け、若者議会を通して得られたたくさんの方々との繋がりを大切に、今後も新城市をフィールドに頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、なかなか対面で話し合いに参加できないにもかかわらず、温かく迎え入れてくださった若者議会委員の皆様や、参加しやすいように常にご配慮くださった職員の皆様など、関わってくださったすべての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。１年間ありがとうございました。

○梅田禪之助議長 ありがとうございました。

４．市議会議長挨拶

○梅田禪之助議長 それでは、続いてお忙しい中ご出席いただきました、長田市議会議長様からごあいさつをいただきたいと思います。

○長田共永市議会議長 まず、今日という日を迎えたことを、議長として、心より喜びたいと思っております。そして、少し自信を持った顔になったのでしょうか。そんな顔を見て、合わせてうれしく思います。君たちは気づいていないかもしれないが、君たちのこの若者議会での経験は、君たちの成長、今、自分自身も成長したと言ってみえましたが、それもちろん、それ以上に、このまちにとっても大きな一歩であるということを、自信を持って言えるようになってほしいし、そのために、

議長、議会も応援するということを約束させていただきたいと思います。

君たちは、このまちやこの地域に住んでいるだけで、貴重な資源であって、力であって、そして、すてきな原石だと思います。ダイヤモンドは、ダイヤモンドでしか磨けません。つまり、若者議会一人一人の君たちがダイヤモンドの原石であるのであれば、光するためには、君たちそれぞれが切磋琢磨しなければなりません。そして、それを応援する。それがこのまちの大人の役割だと思っています。君たちは今後もこの新城というまちを応援したい、また、このまちづくりに関わりたいと言ってみえました。そんな中で、君たちは、改めてこのまちにとって自分自身がまちづくりの座標において、どの位置にいるのか、そして、何ができるかということを改めて考えていただければと思います。

君たち若者議会にとって、先週3月21日は記念すべき日になりました。君たちの3つの事業、2,553千円というのが議会が無事承認されました。議会の予算を取ることが、君たちの委員会、そして今年度の若者議会の目標ではないということは君たち自身が一番知っているかと思います。その事業を令和7年度に、しっかり成功させることが、それまでが君たちの仕事であって、責任です。まちづくりというのは、点ではないし、それを若者議会は実際にやっているはずです。そんな中で、令和7年度、この3つの事業がきちんと、どんな形でもいいから、責任を持って見守ってほしいと思います。そして、重ねてにはなりますが、議会としても承認した責任がある。そんな中で応援していきたいということです。

君たちは知っているかと思いますが、木を植えた男という有名な小説があります。この小説の中には、まちづくりに対しても大きなヒントがあると思います。ぜひ読んでいただきたいのですが、そんな中で郷土愛という言葉があります。そして今、シビックプライドという言葉があります。シビックプライドというのは、郷土を愛するだけではなくて、この君たちが言った第2次新城市若者総合政策において、自分たちが能動的に自分たちのまちをつくるということが、シビックプライドだと思っています。このまちにいてもいなく

ても、この政策のために何かできることがきっとあるはずだと私は思っております。そんな中で、君たちの1年間の成長を楽しく見守らせていただきました。また、本年度の若者議会の皆さんは、議長からの約束は覚えていますか。それは、答えはいただけませんでしたが、それは置いておいて、君たちの1年間の成長を心よりうれしく思うということを伝えさせていただいて、そして、このまちをしっかり今後も支えていただきたいということを述べて、議長からの挨拶とします。

1年間お疲れ様でした。そして、まだまだ責任はあるということを覚悟しておいてください。

○梅田禅之助議長　ありがとうございました。

4. 市長あいさつ

○梅田禅之助議長　最後に、下江市長からごあいさつをいただきたいと思います。

○下江洋行市長　まず、第10期の若者議員の皆さん、本日大変お疲れ様でした。そしてありがとうございました。

この1年間検討を重ねていただきました事業を、説明をしっかりといただきまして、提案を受けました。振り返りますと、5月の初めの所信表明からスタートして、8月に中間報告をいただきました。そして、11月に皆さんの報告を受け、そして11月から、しっかりと次年度の実施に向けて、さらに詳細に事業について検討していただきました。皆さんからそれぞれ委員会からご提案をいただき、発表いただきましたので、簡単にではありますけれども、一言ずつ、コメントしたいと思っております。

まず、未来の育み手委員会の発表を受けてでございます。ボランティア人材バンクでありますけれども、ボランティアを必要とする方と、それからボランティアをしていただける側の皆さんとのマッチングの仕組みづくりから、まずは、それぞれの地域の活力に繋がる具体的な動きが、起きてくることを期待しておりますし、必ずそういう展開が見られると思っております。そして、12月ごろに

開催を予定しますJUMPUPミライフスであります。この事業におきましては、若者と、それから3歳から5歳ぐらいの幼児との交流を行うということも1つ発表されたと思いますが、ぜひそのお子さんの母親や家族との交流も重要であると考えております。皆さんがこれから自身のライフデザインを考える上においても、それはきっと必要なことであると思いますので、そんな交流の場になることを期待するとともに、世代間の風通しがよいまちに、また子育てにやさしいまち、さらには未来に希望が持てるまちに繋がる事業となることを期待します。

そして次に、まちづくり委員会の発表でございます。現在、新城市ではシェアサイクルの取り組みは確実に進んでおり、定着しつつあります。皆さんもご存じの通りでありますけれども、具体的には、道の駅もつくる新城であったり、長篠城址史跡保存館であったり、そしてJR飯田線の駅、また湯谷温泉にもございます。シェアサイクル、レンタサイクルを市外の皆さんが利用していただくためにも、まずは市内の若者みずからが利用することで、新たな可能性に繋がる課題やヒントを得ていただけたことに感謝を申し上げます。そして、つながる地域と若者の輪を広げる事業についてでありますけれども、全地区合同で行うという考え方で、大変大きな事業になると思われます。この事業につきましては、市内10地域自治区があります。大変広い新城市でありますので、それぞれの自治区で、地域活動に熱心に取り組んでいる、その地域のキーマンになる人に協力していただくことが1つ重要なことであると思いますので、そういう観点で事業を進めていっていただければなと思っております。

そして、次に若者政策委員会の発表を受けてでございます。第2次若者総合政策の4つの指針を示していただきました。これを見て、発表を聞いて思ったことは、私ども行政は、皆さん若者の心理的安全性を高めていく、そういう環境づくりをしっかりとやっていかなければいけないということを改めて実感しましたし、強く思いました。そして、次の10年に向けて、これまでを振り返り、これからの若者政策の事業検討を考える上での新たな拠り所となる総合政策を策定されたこと

に大変大きな意義があります。これから若者議会メンバーが若者の感性や視点でまちづくりを考える上で、また行政や議会、さらには幅広い年代の市民にも、この第2次新城市若者総合政策をしっかりと腹に落とし、浸透させていくことが大切だと思います。広く発信していくPRにも努めていただきたいと思いますし、行政としてもしっかりとその協力、またサポートはして参りたいと思っております。若者10周年記念事業についても説明をいただきました。この事業についても、若者を応援していただける広い年代の方々にも参加をいただけるような、そんな開催になることを期待しております。

本当に皆さんのそれぞれの思いが詰まった発表をいただきまして本当に感謝をします。ありがとうございます。先ほど議長からもお話がありましたけれども、3月の定例会で、この皆さんご提案の事業につきまして、予算が認められました。しっかりと皆さんの思いを受け継いで、実施して参りたいと思っております。

そして今、皆様、それぞれお一人お一人から、1年の振り返りを聞くことができました。皆様の思いを受けとめることができました。皆様の成長の証といえるキーワードがたくさん出てきたと思います。例えば、助け合うことや協力し合うこと、またコミュニケーション力、さらには新城市の魅力を新たに発見したこと、また課題も発見したこと、そして新城市のまちを好きになること、そんないろんなキーワードが出てきました。本当に皆さんの成長する姿をうれしく思いました。皆さんは、若者議会委員のメンバーはもちろん、同世代の仲間との繋がりはもちろんでありますけれども、さらに、この1年間を通じて、いろんな年代の方、いろんなお立場の方と繋がることのできたと思いますし、また活動の領域も本当に大きく広がったと思います。どうかこの1年間の皆さん自身の歩み、活動に本当に自信を持ってください。そして、現在この若者議会の提案事業の実行部隊となる組織を立ち上げることをお聞きしております。皆さんが提案した事業を実際に行動に移し、そして確実に実行しようとする気づかいは新城市を必ず盛り上げてくれると思っております。また、期待をしております。

本日をもって第10期若者議会としての活動は1つの区切りになると思いますが、ぜひ皆さん、この1年間の活動を通して皆さんが感じたこと、また皆さんが習得したこと、そうしたことを自分の周りの人に広く知っていただけるように、お話をしていただきたいなと思います。そして今日が、また皆さんの新たなスタート地点になるという自覚を持って、これからも、皆さんと、そして行政と、そして幅広い年代の市民の皆さん、そして議会の皆さんに力を借りて、若者の政策をさらに力を入れていくとともに、この若者議会がさらにこの新城市を牽引する1つの政策の柱となっていくように、しっかりと皆さんの応援をしたいと思いますので、引き続きよろしくお願いします。

皆さん本当に1年間お疲れ様でした。ありがとうございました。

○梅田禅之助議長　ありがとうございました。

最後に、私の振り返りをお話しさせていただきますと思います。私は今期、第10期で若者議会に参加し、2年目となりました。

第9期では、まちづくり委員会に所属し、若者の交流について事業を練り上げ、事業が今年度形になりました。街中を歩いているときに、提案した事業が若者の日常に組み込まれているというのを見ると、非常にうれしくなったのを覚えております。

今期、第10期では、若者政策委員会で、第2次若者総合政策の策定、10周年記念事業について考えて参りました。若者の思いとは何なのか、その思いを形にするためには、新城市の若者がどうあってほしいのか、議論を重ね、今回、市長報告を迎えました。来年度以降の実行に向けても精一杯取り組みたいと考えております。この2年間、時には考えがまとまらずに結論を出すのに苦労したり、様々な事情から事業、政策案が白紙に戻ってしまったり、様々なことがありましたが、思いを形にするということは、非常に良い経験となったと思います。

さて、今期は若者議会にとって節目の年であると考えておりました。私もこの節目の年をどのようなものにするのか若者政策委員会として考えて参りました。ここまで、10

年間歩んできた若者議会ですが、第1期の若者議会のころの政策と、今の第10期の若者議会の政策に込められた思いというのは、変化があるというのを議論の中で感じておりました。しかし、これまでの10年間、そしてこれから10年間で、変わらず、若者の思いというのは、その時々を生きる若者が作り上げていくものだと考えております。私も、新城市若者条例の若者の定義である、おおむね13歳からおおむね29歳を考えると、まだまだ若者として活動することができます。若者として、自身の未来を考え、何を求め、何を今必要とするのか。若者の思い、若者としての思いを大切に、これからの先、未来へ歩んでいきたいと考えております。

最後になりますが、今期、議長として若者議会に携われたこと、支えていただきました委員、メンターの皆さん、事務局の皆さん、市議会の皆様、そして、家族、市民の皆様に、この場を借りて感謝を申し上げたいと思います。1年間ありがとうございました。

以上となります。

これをもちまして、第12回新城市若者議会市長報告を閉会させていただきます。

閉　　会　　午後8時16分